

平成30年 12月3日

県立広島大学未来への確かな構築

地域と世界を先導する人材育成に向けて

県立広島大学理事長・学長 中村 健一

Presentation内容

1. 総括
県立広島大学の現状
2. 教育に対する課題とその克服
3. 研究・地域に対する所信
4. 大学経営に対する所信
5. 最後に

1. 総括

県立広島大学の現状

県立広島大学の現状（総括）

3大学統合してから13年（法人化後 11年） 白寿にあたる年度



2005年 県立広島大学

- ・ 県立広島女子大学
- ・ 広島県立大学
- ・ 広島県立保健福祉大学



学部学生 2469名

教員数 233名

職員数 124名

58.9%の県内入学者

57.7%の県内就職者

基本理念「**地域に根ざした，県民から信頼される大学**」 確かな実践
県民の期待に応える（教育・研究・地域連携）

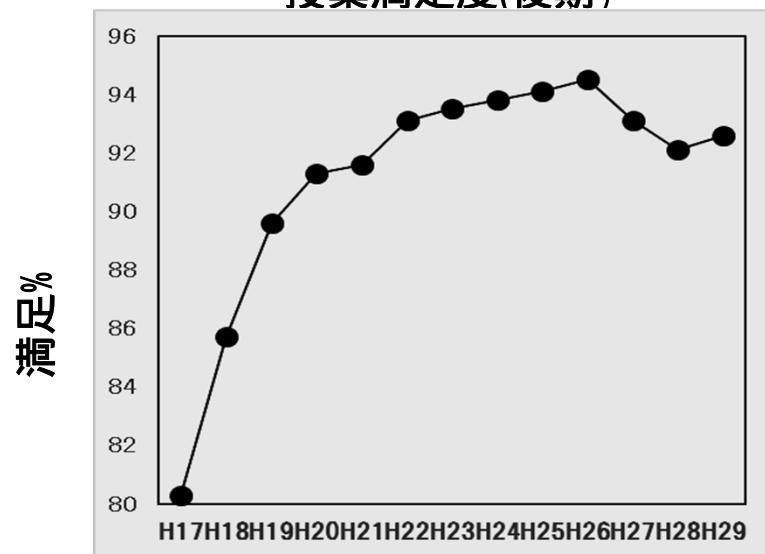
県立広島大学の現状（教育・研究・地域貢献）

教育が最重要ミッション

確かな研究力が教員にあること

1. 教育力

授業満足度(後期)

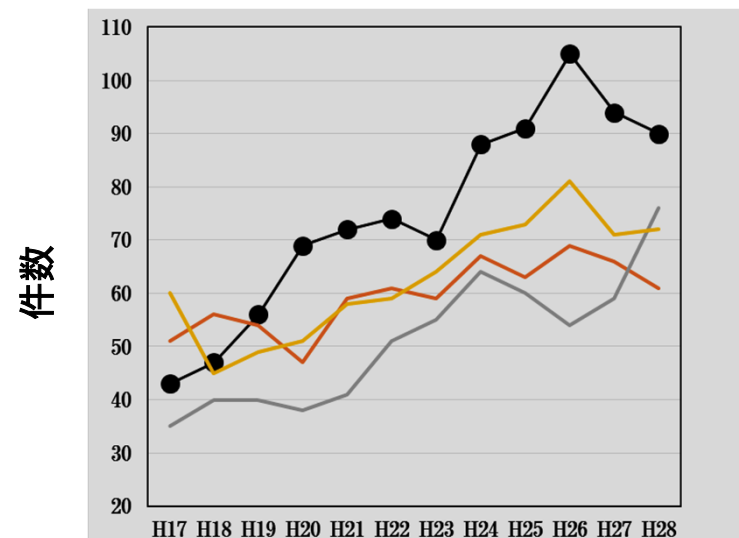


○教職員一体となった教育力改善 (FD) の取り組みによる効果

○少人数の丁寧な教育指導の徹底

1. 研究力

(文科省科学研究費助成事業採択件数の増加)



○中・四国・九州地方の27公立大学で12年間1位 申請奨励制度

猿橋賞受賞者は本学学位・教員出身

就職率99.8% 進路満足度90.9% 高い国家試験合格率(5分野100%) 高い図書利用率
 地域課題解決研究 211件 10の自治体 11の公的団体・金融機関との包括協定

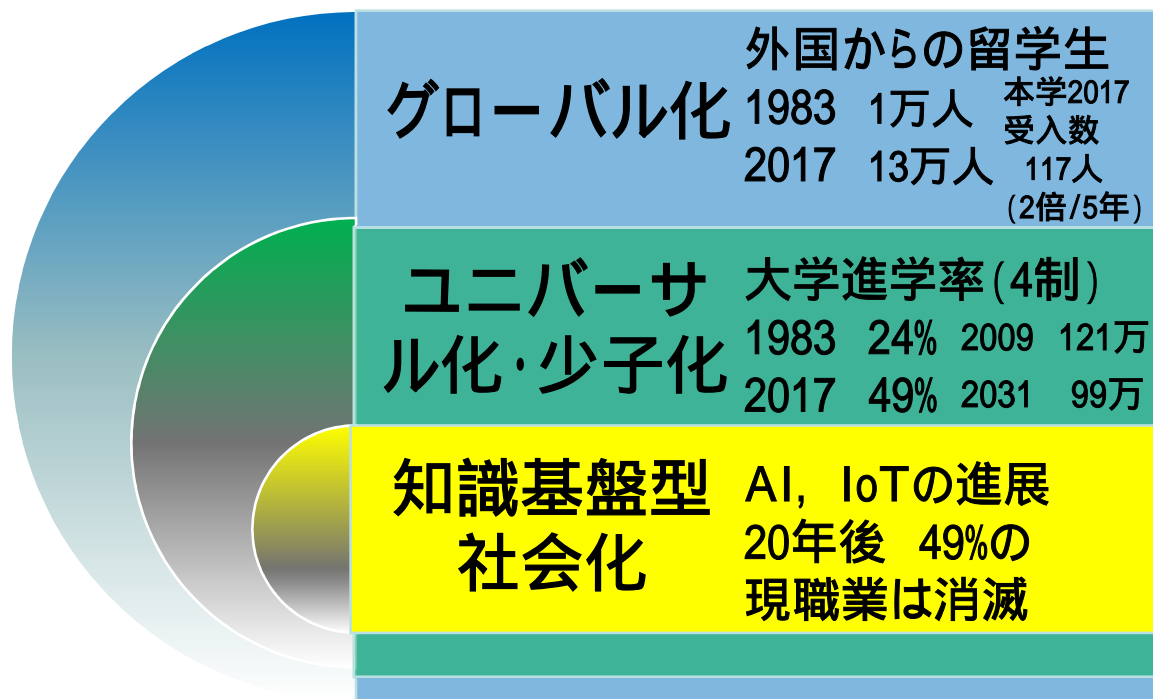
県立広島大学の現状 (取り巻く社会環境)

地域に根ざした, 県民から信頼される大学

社会環境の劇的な変質

大学

大学における 運営・経営・管理



運営費交付金 授業料
外部獲得資金

学長の リーダーシップ

理念の遂行

教育・研究・地域連携・組織における課題が明確に。6

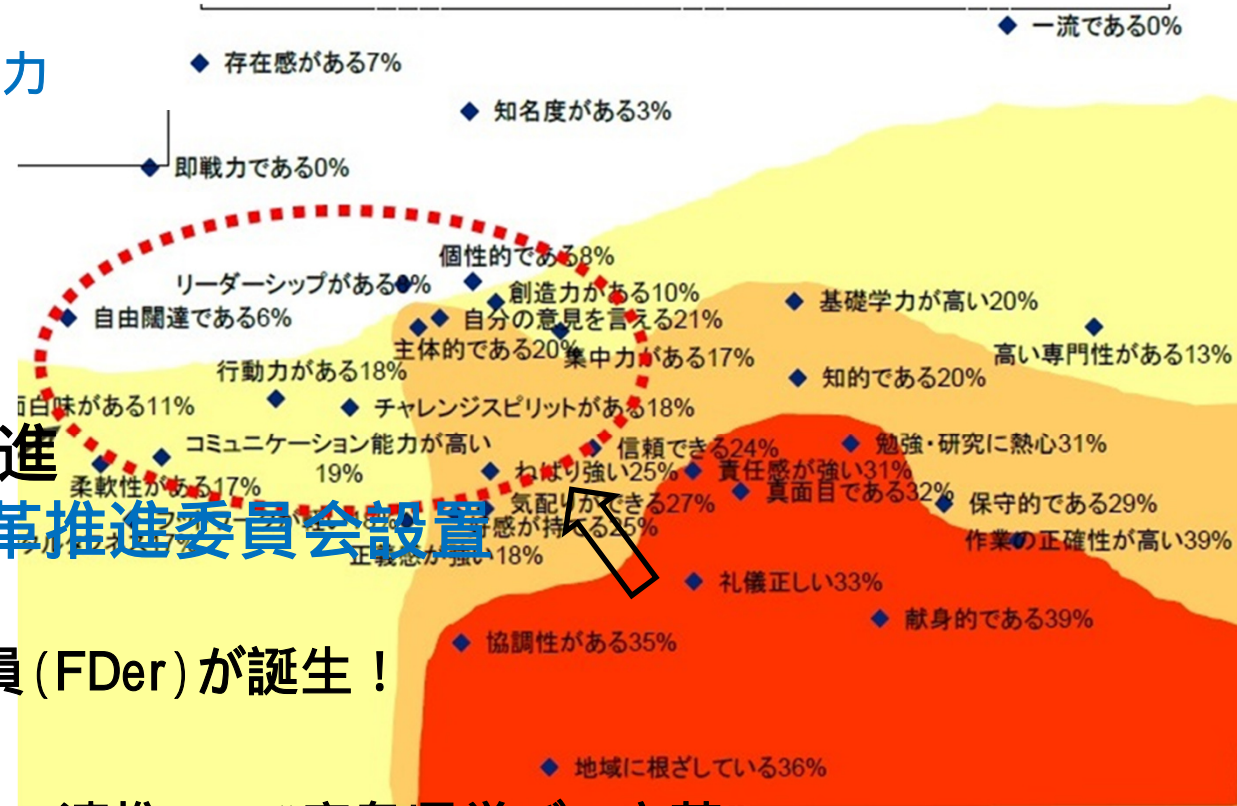
2. 教育に対する課題とその克服

愚直力に加え,本学が取り組む人材育成目標は

経団連2016年度新卒採用 アンケート

1. コミュニケーション能力
2. 主体性
3. 協調性
4. チャレンジ精神
5. 誠実性

デロイト・トーマツコンサルティング(株) 2014年度調査 34企業



主体的な学びの推進

2013年 教育改革推進委員会設置

AP事業の採択

現在49人の推進教員 (FDer) が誕生!

本学教育の牽引者

広島県教育委員会との連携 “広島県学びの変革”

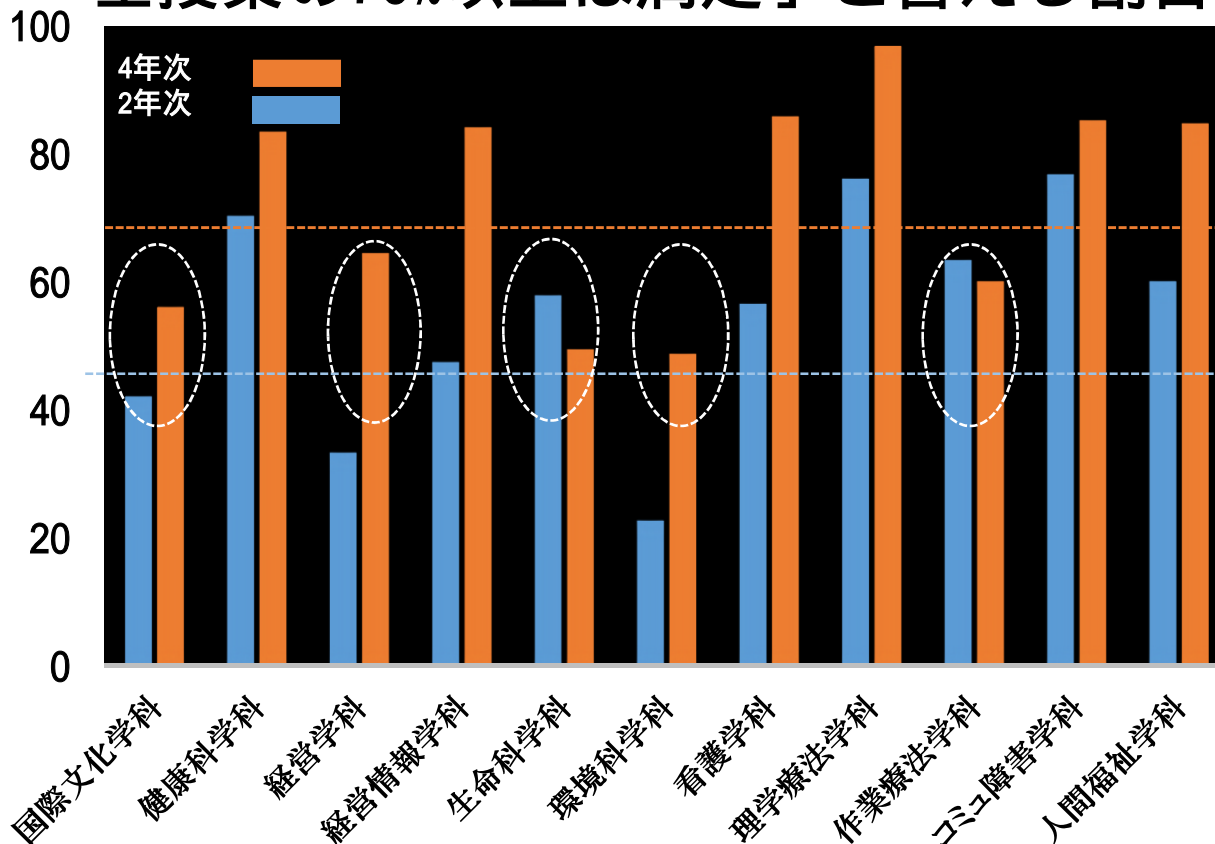
コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びを促す教育活動 8

本学の教育目標: 愚直力 + 課題探究型地域創生人材の育成

学科における組織だった教育改善力が脆弱

学生意識調査
問4項目

「全授業の70%以上は満足」と答える割合



授業満足度

2年次

4年次

有意な相関

$$P = 0.02 < 0.05$$

5年前との相関

有意な相関

$$P=0.0016$$

構造的問題

授業で得られる満足感 = 帰属意識を培う

* あなたは同じ専門分野を学ぼうとしている人に対して、現在所属の学部での学習を勧めますか？ 有意な相関あり 2年次 4年次いずれも $p < 0.01$

現状での改善は無理！ **大胆な組織の組み替え 学部・学科再編** 9

具体的再編方針 【法人案】2019年 3月提出予定

現行			再編後				
学部名	学科名	定員	学部名	学科名	コース名	定員	
人間文化学部	国際文化学科	85人	地域創生学部	地域創生学科	地域文化コース	165人	
	健康科学科	35人					地域産業コース
経営情報学部	経営学科	60人			健康科学コース		
	経営情報学科	40人					

現行			再編後			
学部名	学科名	定員	学部名	学科名	コース名	定員
生命環境学部	生命科学科	110人	生物資源科学部	地域資源学科	地域資源開発コース	40人
	環境科学科	55人				
環境科学科				55人	環境科学コース	

現行			再編後			
学部名	学科名	定員	学部名	学科名	コース名	定員
保健福祉学部	看護学	60人	保健福祉学部	保健福祉学科	看護学コース	60人
	理学療法	30人			理学療法学コース	30人
	作業療法	30人			作業療法学コース	30人
	コミュニケーション障害学	30人			コミュニケーション障害学コース	30人
	人間福祉科	40人			人間福祉学コース	40人

各分野における「地域の実践的リーダーを輩出する県立広島大」とのブランドを確立

県立広島大学再編及び新大学設置

現大学 大胆な組織の組み替え = 再編県立広島大学
 学部・学科等の再編の着実な実行 2019年度設置認可

地域貢献を
 使命とする
 公立大学の
 「モデル」と
 なることを期
 待している。

矢田俊文
 元公立大学協会会長

法人内に新たな教育手法による新大学を設ける

機能的・効果的な連携を行うことにより、際立った特徴を産むことができる

現在, 20 - 30年後に
 おいて確実に求められ
 る特徴的な異なる2タ
 イプの人材を
 1法人のもとに育成!

学内外の意見を
 踏まえ, 学部・学科
 等の再編と新大学
 の設置に向けた
 舵取り・推進

人材育成の視点

主体的に
 考える力

グローバル力

AIに代替えで
 きない実践力

地域に対する
 役割・視点

再編県立広島 大学

CBAL (地域的)
Community Based Active Learning

異文化理解
 留学体験

高度な専門的
 実践力

地域未来の実
 践的牽引者
 地域 世界

新たな大学

PBL (汎用的)
Project Based Learning

実践英語
 外国臨地体験

新たな価値を見出す
 イノベティブな力

地域と世界と
 のリンカー
 世界 地域

3.研究・地域に対する所信

県立広島大学は、
どのような研究を進めるのか
地域にどのような形で成果還元するのか

1) 意欲的に教育と共に研究に取り組み、学生に研究への興味を喚起 地域連携を意識する人材を採用する

2) 地域に根ざした研究の支援と成果の発信

高度人工知能プロジェクト研究センター レモン健康科学プロジェクト研究センター
資源循環プロジェクト研究センター 地域医療経営プロジェクト研究センター
防災社会システム・デザインプロジェクト研究センター

地域基盤プロジェクト研究センターの設立と地域課題解決
研究及び宮島学研究などの推進

地域研究に強い県立広島大とのブランド確立

3) 社会人に幅広い知識啓発や実践力の育成を展開

県大エクステンションセンターの設立(地域連携センター内)

社会人を対象に一定の教育計画の下に編成された体系的な知識及び技術等
習得の有料制講座を開講(文部科学省 60時間で履修プログラム証明書発行)

学部・HBMS・各プロジェクト研究センター等が提供

4. 大学経営に対する所信

5. 大学経営に対する所信

- 1) 本学運命共同体に参画する教職員の確かな人物選考
採用時の教職員適性を見極め 社会人経験と人物評価・経験
昇任教員の選考基準・システムを多角的・多層的

- 2) 運営費交付金の減少に対して
外部資金獲得 地域連携センターの支援・サポート
競争的外部資金の獲得増大 部局からの応募促進
大型資金への挑戦 環境 Project研究センターの発展
資金獲得に対する評価Pointを高くする 特に科研費取得
企業からの研究資金 寄附口座や学内ベンチャー設立
外部資金獲得 クラウド・ファンディング, 古本募金, 遺贈制度

- 3) 本学への生徒の受入れ 魅力の発信
Reputationの向上 魅力ある授業提供, 学生対応意識の改善
高校との連携 教諭の心を掴む 県教委とのtightな連携

5. 大学経営に関する所信

- 4) 効率性と帰属意識を醸成する大学運営
共通の組織目標の浸透, 情報開示, 積極的な対話
* Office Hour 面談者は4倍に増加(19人H24 80人H29)
幹部教職員との意識の共有 評価シートでの面談活用
- 5) 授業支援・事務等の作業効率化
SAやTAの増加 入学前学習e-learning IT化の推進
映像コンテンツ作成 電子出版 講義のデジタル化
- 6) 学生が学び・働く環境としての大学へ
広報や大学業務などへの積極的學生参加と活用

5. 最後に

「本学の理念」は、県民から信頼される大学になることです。そのためには、**県民から誇りにされ、県内外から、注目され、選ばれる**大学になる必要があります。

それには

全ての学生が県立広島大学で**学んで良かった**
全ての教職員が県立広島大学で**働いて良かった**
と感ずることができ、県立広島大学の構築です。

その遂行に向けて努力することこそが
私に課せられた**2年間のミッション**であると捉えています。
皆様と力をあわせて精一杯取り組んでゆく
所存です。